

---

---

動向

## 「現代女性とキャリア連携専攻」の役割

佐々井 啓

「現代女性とキャリア連携専攻」発足から3年目が終わろうとしている現在、本専攻はようやくその存在が認められてきたように思われる。本年度は教授会で認められた委員会として各学科から委員の選出が行われ、本専攻の運営にあたってきた。委員は他の委員会との重複は避けられないが、それでも本専攻に対する各学科の理解が得られてきたものと考えられる。

とりわけ、コア科目の中で最も学科と関わりの深い「女性と職業」では、目白地区10学科から1名ずつゲストスピーカーを選出しているため、学科としては卒業生とのつながりを再認識する機会となっている。本科目は、前期の授業終了後に意見交換会を開いてきた。本年度より授業担当者および委員会の意向として、意見交換会を委員会主催とし、今後も途切れることなく、卒業生と母校との絆を大切にしていきたいという意図が明確にされた。また、卒業生にとっては、異業種間の情報交換の場としても大いに役に立ったようである。

授業後、毎回学生の感想をゲストスピーカーの方々にお渡しするが、そのなかで、「学生の感想文をドキドキしながら読みました」、「私にとってもよい経験となり、一番うれしかったのは、社会に出るのがわくわくしてきました、という学生の声でした」というご意見が印象的であった。また、授業担当者による最終回のアンケートでも「働くことに勇気を持てるようになった」「将来は想像していた以上に多様な可能性があることがわかった」という感想が多かった、と報告されている。さらに、意見交換会では、「異業種の先輩方とお話ができて、あらたなエネルギーをいただきました」という声も聞かれ、今後も卒業生同士の交流の場をさらに大きくすることによって、社会で活躍する卒業生の限らない力が学生たちに大きな影響を与えることになるであろう。

f-Campus への提供科目をこれまでのコア科目4科目に加えて、「女性と職業」「女性と身体」の2科目を追加し、6科目すべてを提供することとした。その結果、現在、1名の男子学生が「女性と身体」を受講している。本学ならではの取り組みとして本専攻が注目され、f-Campus の各大学からも受講生が多くなることを期待している。

広報活動として、引き続き本専攻のちらしの印刷を行った。特にコア科目についての十分な情報を提供することを目的として学生にガイダンスを行うだけでなく、ホームページや大学案内など、さまざまな媒体を通して広報を行っている。また各学科の委員が本専攻の履修にあたって役立つと思われる図書を本委員会推薦図書として図書館の協力のもとにちらしを作成した。これは図書館ホームページでも公開されている。

以上のように、本専攻はやっと歩き出したところである。来年度には初めて専攻の修了生を出すことになる。どれだけ多くの学生が、自らの専門のほかに、女性として社会に出ることの意義を考えて受講しているのか、本専攻の存在意義が問われることになるであろう。

今後も「現代女性キャリア研究所」とのさまざまな連携において、本専攻は、学生が卒業後に挫折せずに社会で活躍できるように、在学中に自分自身を知り、自らを高めていくための支援を行うことが重要ではないかと考える。

## 参考

### 2010 年度コア科目受講者（2009 年度）

現代男性論 120 名（62 名）	日本の女性史 195 名（49 名）
現代女性論 55 名（106 名）	世界の女性史 74 名（42 名）
女性と職業 47 名（107 名）	女性と身体 24 名（20 名）

### 「女性と職業」2010 年ゲストスピーカー内容

I T コンサルタント	(数物科学科・1982 年卒)
化学品メーカー 商品開発	(被服学科・1991 年院修士修了)
社会福祉法人施設	(児童学科・2003 年院修士修了)
食品メーカー 研究	(食物学科・2002 年院修士修了)
建築会社 建設設計長	(住居学科・1983 年卒)
電気メーカー 半導体技術開発	(物質生物科学科・1998 年院博士課程前期修了)
地方公務員 消防署	(家政経済学科・1976 年卒)
消費生活協同組合 販売	(日本文学科・2008 年卒)
NPO 法人理事長	(英文学科・1978 年卒)
新聞社／社団法人(兼務)	(史学科・2007 年院博士課程前期修了)

(ささい けい 現代女性とキャリア連携専攻委員会 委員長)